

2023年度 事業報告

1、 総括

○新型コロナウイルス（Covid-19）の感染症が2類より5類に引き下げられことから、エキスポの展示を実地で、販売はインターネットを通じて実施した。

また、山陰パナソニック様が行うバディアートに参加させてもらうことで、当法人在籍アーティストの手がける作品が出雲くにびきマラソンのポスター、Tシャツなどに採用されるなどアートでの活動の幅を拡げることができた。今後も山陰パナソニック様を含めた関係企業様と手を繋ぎ合い、アーティストの自立への可能性を拡げていきたい。

○ハーブ事業による安定収入

西部浄化センター横の太陽光発電所管理による、大きな定期的収入のおかげで、利用者への安定した給与に繋げることができた。受注先への配慮に感謝しながら今後も安定した協力体制を構築していきたい。

○施設利用者数については昨年とあまり変動がなかったものの、支出を抑えることで事業全体としては業績の改善に繋げることができた。しかし、昨年からインボイスが導入されたこともあり、収益は伸び悩む結果となった。障害者自立支援法の改定もあり、福祉制度は大幅に変わるが、サポートセンターどりーむの理念を大切に、法人発展に繋げていけるようアップデートしていきたい。

2、 組織の状況

① 2023年度会員数

正会員 40 賛助会員 0 計 40

② 理事数・理事会開催数

理事 6人 監事 2人 開催数 3回

3、 事業実施の成果

A) 就労継続支援B型“わんぱく大使館”事業

【2018年4月1日（指定）】 現在 23名（定員20名）

障がいのある人の個性や創造性に着目した新たな自立支援の道として平成24年4月1日からわんぱく大使館（B型事業所）をスタートしてきた。2024年3月31日更新

現在定員20名のところ23名の利用者が施設利用している。

引き続き施設利用者へのきめ細やかなサービス提供、継続した施設利用に繋がるよう、職員の人財育成を中心に今後も努めていきたい。

山陰パナソニック様手がけるバディアートに参加、アートのデザインとしての可能性拡大に繋げることができた。今後も手を繋ぎアートでの自立に繋げていきたい。

災害、感染症が続く中での施設継続が今後さらに求められることから、業務継続計画書（BCP）を用いた対策に努めていきたい。併せて障がい者虐待防止にも力を入れていきたい。

利用者数の状況

定員20名

月 度	(2023年4月～2024年3月)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	22	24	24	24	23	23	23	23	22	22	22	23
月平均利用	18	19	18	19	18	18	18	18	18	18	18	17
充足率（％）	90	95	90	95	90	90	90	90	90	90	90	85

就労支援事業収入と平均工賃額

月 度	(2023年4月～2024年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就労支援事業収入（千円）	462	331	361	369	322	311	668	996	408	396	447	355
平均工賃（千円）	20	20	22	21	20	20	20	20	21	22	21	21

B) アート展の開催

2023年度のアート展は、展示を実地（斐川図書館ロビー）、販売はインターネットで実施した。

C) 計画相談支援および障がい児相談支援事業

【2016年9月1日（指定）】

現在 8名

新規利用者の確保はもちろん、相談支援専門員の人財確保、またそれに準ずるための人財育成、資格取得に努めていきたい。

きめ細かいサービス提供に繋がるよう、職員のスキルアップに力を注いでいきたい。

利用者数の状況

月度	(2023年4月～2024年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	9	9	9	7	7	7	7	7	8	8	9	9
サービス提供実施回数	8	8	9	8	7	7	7	7	8	7	8	7

D) 共同生活支援“わんぱくハウス”事業

【2018年4月1日（指定）】

現在 2名（定員6名）

障がいがある人たちが安心して生活できる場として、2018年4月1日からスタート

昨年同様、現在2名が利用。利用者が地域住民の方々にあたたかく見守られながら生活
 が送れるよう、また利用者の居場所作りに繋がるよう、地に根を張りながら支援に務め
 ていきたい。あわせて職員の資質向上、人材育成に取り組んでいきたい。

利用者数の状況

定員6名

月度	(2023年4月～2024年3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
月平均利用	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
充足率（%）	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33

E) わんぱく学園事業

地域住民を巻き込んだ共生の町づくりの普及、そして、障がい児者、家族、関係者の
 悩み、県内の障がい者グループとの情報交換や相談の充実の場として1988年6月26日に開
 園したわんぱく学園。感染症法が改正され、自粛していた活動を再開したが利用者数は
 伸び悩む結果となった。引き続き思いの輪を拡げていきたい。

4、事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施事業の日時、場所 従事者の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (単位：千円)
本部	本部事業	通年	18名	2,371
就労継続支援B 型事業所 わんぱく大使館	アート展開催	一畑デパートアートフェア (感染症の感染拡大のため中止) 第13回国際チャレンジド アートエキスポ R6年3月5日～R6年3月15日 5名	絵画、陶芸製作者 22名 22名	179
	障がい者の就労 支援	毎週月曜日～金曜日 9時～16時 わんぱく大使館 5名	わんぱく大使館 利用者 22名	33,421
計画相談支援	障がい者の計画 相談支援	毎週月曜日～金曜日 10時～16時 相談支援事業所わんぱく 2名	相談支援事業所 わんぱく 利用者 8名	2,658
共同生活支援 事業	障がい者の共同 生活支援	年末年始以外 わんぱくハウス 3名	わんぱくハウス 利用者 2名	4,786
音楽事業	障がい者の音楽 支援			0
わんぱく学園 事業	障がい者、健常 者一緒の戸外活 動	毎週日曜日午前中、アト リエ「おちらと」 2名	障がい者 延べ 86名	310

(2) その他の事業 実施していない。